

Y33 TRY FORCE DTM VERSION

かなりのシャコタンだが、フェンダーの折り返しをカットしているので、タイヤは当たらない。現時点でもノーズの動きはクイックで、ステアリングの手応え感もまずまず。意外とサーキットでもイゲルんじやないかな。



シンプルで美しいアルミパイピングの下に、GT2835Sタービンが納まっているのだ。現時点での最大出力は、ブースト1.3倍/分で、約450psだ。



特注フルレカロ仕様は、フロントガレカロDSEで一脚66万円。総額200万円は下らないであろう豪華な室内。「〇ん〇ん風のガラやる？ネライやねん」。



リアアッパー部には、パープルアルマイトが施され、「ファンタムくん、で〜す」ってな主張が。ちなみにフロントサスは、「どっかのダウンサス1巻カット仕上げや」。

TEST ON ROAD

DTMエッセンスを取り入れた B1Gセダンの新レーシー路線を主張 タービンだつてGT2835Sだつて！



もともとこのクルマはグランツーリスモだったものを、フロント回りをプロアムにコンバージョンしてある。フロントバンパーポイラーの形状も若干異なり、プロアム用の方が若干大きい。バンパーポイラーの価格は、16万8000円。前置きインタークーラーはワンオフで製作。



硬派な造形を魅せるサイドステップ(11万8000円)。ちなみにフロント、サイド、リアバンパーのセット価格で45万円(リアスポイラーは別)となる。



かなり効きそうなリアバンパーポイラー(価格18万8000円)、ディフューザー部から顔のモカせる、太ッといDTM風100mm×2本出しテール。リアスポイラー(価格10万円)ともマッチングは抜群だ。残念ながらマフラーはワンオフ。

追方っていう点では一致するけど、その種類が違う。機能美的追方っていうのかな、なんか、戦うクルマ。ってムードが全身にたちこめている。コイツにもっと、派手なオーバードンダーをつけてGT選手権にエントリーしても、全然違和感ないよね。そんなクルマに仕上がっているのだ。

なんたって、ワンオフの(いまのところ)パイピングに、タービンはHK SのGT2835S(アクチュエーター仕様)が組み込まれ、Z32用エアフロが計測した吸入空気量から、オリジナルセッティングのCPが550ccインジェクターを稼働させると、ブースト1.3kg/cm時に、なんと450psを発生しちゃうという、バカッ速なB1Gセダンなのだ。

このY33は巷にあふれているような、外観だけのヤワなチューンドセダンじゃないぜ！

なんと、ボクキーがバクッたDTMマシン流迫力美をジックリと味わってくれ！

「どう、キマッてるでしょ」と、トライアルのボクキー牧原氏。今回は一生懸命、超時に減シワを作る練習をしていた。



「どう、キマッてるでしょ」と、トライアルのボクキー牧原氏。今回は一生懸命、超時に減シワを作る練習をしていた。